

## 1. 研究主題・副主題

# 学び合って考えを深めていく子の育成 —違いを認め合い，互いに聴き合う授業を通して—

## 2. 主題・副題設定の理由

本校では、学校教育目標「人間性豊かな児童の育成」を受け、研究主題を「学び合って考えを深めていく子」と設定した。本校が考える『学び合って考えを深める』とは、お互いの考えを聴き合い、本質を見つけようとする力である。子どもは異なる考えに触れ合う中で自分の考えを再構築したり、互いの考えを認め合う中で新たな価値や見方を構築したりするであろう。互いに協働し、学びを深める楽しさを自覚することは、これからの社会を生き抜くために必要な「主体的・対話的で深い学び」の実現につながると考えたからである。



昨年度は、副主題を「相手意識をもち、主体的に表現する授業を通して」とし、取り組んだことで、児童が自分の考えをもち、相手に伝えたいという思いをもつことができるようになった。しかし、児童全体として表現する意欲は芽生えてきたが、教科の見方・考え方を働かせてお互いの考えを聴き合い、そこから新しい考えに気づいたり、よりよい考えを練り合ったりする姿としては十分ではなかったという点で課題が見られた。

そこで今年度は、カリキュラムマネジメントの柱「思いやりをもって共に生きる子の育成」を受け、研究副主題を「違いを認め合い、互いに聴き合う授業を通して」とした。聴く力は思いやりの心である。本校の児童には、まず日々の学校生活における何気ない会話から、お互いの違いを聴き合う関係性を深めていき、本質を見つけようとする対話力につなげたいと考えた。また、毎日の行動を客観的に振り返り、児童自身が自己対話力を高めていくことが、考えを深めていく姿につながるのではとも考えた。この学び合いの素地づくりを丁寧に重ねることで、日々の授業において、児童1人1人が違いを認め合い、互いに聴き合うことを大切にする姿につながる。共に本質を見つけようとする対話がある授業を目指し、研究を進めていく。

特に、児童全員で互いに聴き合う学び合いの場面に重点を置き、全教科を通して今年度は「学び合っ  
て考えを深めていく子」の育成を目指す。

### 3. 研究の仮説と重点

本校では、以下の仮説のもと研究を進めていく。

#### 研究仮説

各教科において、既習や生活経験をもとに「見方・考え方」を働かせて考えをもち、お互いの考えの違いを聴き合い認め合えるようになることで、本質を見つけようとする対話力につながり、考えを深めていく子に迫れるのではないかと。

「相手の考えを聴きたい」思いをもつためには、児童が本気で考えたいくなる課題に出会うことが大切である。自ら進んで関わろうとする主体性から、限られた時間の中でより多くの考えを聴きたい思いが溢れ、多様な他者の視点や考えを認め協働する力につながる。互いの考えのよさを認め合い、自分の成長を認識できる「学ぶ楽しさ」を実感できる授業を重ねていきたい。

**重点1** 「児童が本気で考えたいくなる課題」を設定する。

具体的な手立てとして

①自分の考えをもちたいくなる課題設定（既習、生活経験、児童の問いなど）

に取り組む。課題に対して疑問をもったり、確かめたいくなったりする思いをもてるような課題設定により、児童は、伝えたい、聴きたい思いをもてるようになる。

**重点2** 「聴き合いを活性化させる手立て」を設定する。

具体的な手立てとして

①考えを伝えたいくなる場や聴き合いたいくなる場の設定

②学び合うための表現の共有

に取り組む。目的意識を児童が意識し、関わり合うことでより学び合いが深まる。また、聴き合い・伝え合うための「つたえる」「ひろげる」「つなげる」言葉を提示しておくことで、積極的に関わり合おうという意欲が高まると考えられる。

#### 4. 授業の基本スタイル(鶴ヶ丘スタイル)



#### 5. 研究の進め方

##### (1) 研究組織



- ・研究推進委員会

研究の方向・内容・進め方・研究構想図などの原案を作り，全体研究会および低・高部会に提  
ていく。

- ・全体研究会

研究の方向・内容・進め方や研究授業について協議し，学校研究についての共通理解を図る。

- ・各教科グループ

研究授業科目を中心に実践研究を図る。

- ・学力向上部会

学力向上を含め，共通実践など校内の学習指導全般について協議し，提案する。

各種調査（全国学力調査・県学力調査など）を分析し，対応を検討する。

## (2)研究方法

- ① 主題・副題を受けて，全体研究会で研究の方向性を確認する。
- ② 研究授業で選んだ教科を中心に研究を進める。
- ③ 事前研は各教科グループで行い，参観・事後研は全員で行う。全ての研究授業は6限とする。
- ④ 重点についての協議をもとに，研究の方向性について共通理解を図る。
- ⑤ 先進校視察の報告や講師を招聘した学習会を行う。

## 6. 研究推進年間計画

4	<ul style="list-style-type: none"> <li>・研究主題・副題，研究の基本方針，研究組織，研究構想図等についての共通理解</li> <li>・児童の実態把握</li> <li>・研究の重点の設定，重点の具体化に向けた取り組み</li> <li>・低・高部会：研究授業計画，共通実践の確認</li> <li>・重点を意識した授業の基本スタイルの作成</li> <li>・指導案の形式について検討</li> </ul>
5	<ul style="list-style-type: none"> <li>・学力向上プラン・学力向上ロードマップの作成</li> <li>・提案授業（全体研）</li> </ul>
7	<ul style="list-style-type: none"> <li>・1学期のふり返し</li> </ul>
8	<ul style="list-style-type: none"> <li>・全体研究会（2学期の方向性の確認）</li> </ul>
12	<ul style="list-style-type: none"> <li>・2学期のふり返し</li> </ul>
1	<ul style="list-style-type: none"> <li>・本年度の研究のまとめと研究集録の作成</li> </ul>
2	<ul style="list-style-type: none"> <li>・本年度のふり返し 来年度の方向づけ 学習アンケートの実施</li> </ul>